

青森発の

エネルギーリサイクルとは!?

青森県

六ヶ所村



主排気筒は青森一の高さ

事業のスケールを実感しました

原子燃料サイクル施設の敷地は広がったですね。面積で言えば東京ドーム160個分にも。また、敷地内で最も高い建造物の主排気筒は高さ150mもあり、青森市にある観光物産館アスパムの2倍の高さになるそうです。ここで働いている社員の中には、青森市や三沢市、野辺地町や八戸市といった遠方から通勤されている方々もいらっしゃるのか。多くの人が携わっているというところにも原子燃料サイクル事業のスケールを感じますね。

実際に施設を見学させていただき、運転管理や環境試料の分析がきめ細かく行われていることを実感できました。

安全の確保に向けて努力されているということは、未来を生きる子供たちのためにもとても大切なことです。そこがしっかりしているとわかり本当に良かったです。

原子燃料のリサイクルによって大切な資源が守られていくことも大事なことだと感じました。日本原燃の皆さんには引き続き頑張ってください。

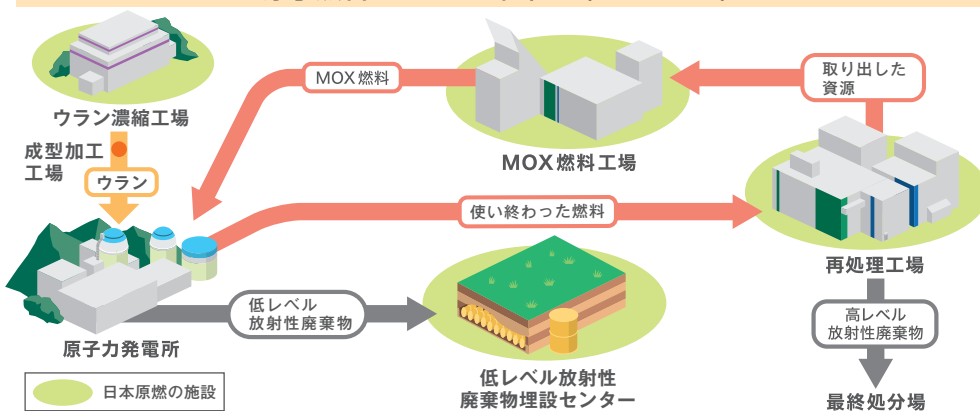
取材を終えて

新山 千春さん (にいやま・ちはる)

青森市出身。1995年にホリプロタレントスカウトキャラバンで審査員特別賞を受賞してデビュー。それ以降、女優、タレントとして活躍。2010年より青森市の観光大使も務める。

日本原燃の原子燃料サイクル施設をはじめ、エネルギー関連施設が集積する青森県六ヶ所村。今回、青森市出身でタレントとして活躍する新山千春さんが使用済燃料再処理工場を訪ね、原子燃料サイクル事業について考えました。

原子燃料サイクルの仕組み(イメージ図)



PRセンターでは大きな模型がたくさん動いており、さながら工場見学のような。大人も子供も原子燃料のリサイクルについて楽しく学ぶことができる施設ですね。

原子燃料をリサイクルすることで資源が長く使えるということ、エネルギー資源の少ない日本にとって大切なことですね。使用済燃料の再処理工場は日本でここだけにしかないということですが、私たちの生活に欠かせないエネルギー資源が私の地元の青森県でリサイクルされるということはとても誇りに感じます。

最初に訪れた六ヶ所原燃PRセンターでは、原子力発電所で使った燃料をリサイクルする流れやその仕組みを学ぶことができました。使い終わった燃料の約97%は再処理することで再び利用できるとのことです。

PRセンターで学ぶ原子燃料サイクル

燃料を再利用できるってすごい



PRセンターでは、使用済燃料からウランとプルトニウムを取り出す仕組みを模型で確認

中央制御室

24時間安全を守っているんですね



毎日約300人の社員が働く中央制御室の前で説明を受ける新山さん

厳重なセキュリティチェックを受けた後に訪れた中央制御室では、再処理に関わるすべての工程を集中的に管理・運転する体制を見ることができました。

ここでは現時点で約300人の社員の方々が24時間・三交代制で働くそうです。それによって日々の安全・安心が守られているのだと実感しました。

した。

今回で説明いただいた社員の方からは常日頃から危険の芽をつぶしていくなければダメなんですよという言葉も。生き生きとした表情でお話をしてくださるその姿からは、安全性向上のために誇りを持って仕事をしているということが伝わってきました。

大切な資源、未来につながるものが大事

厳冬期にも訓練を行っているんですね



事故対策も念入りに

万が一の事故を想定した様々な訓練にも取り組んでいるとお聞きしました。近隣の尾駈おぶち沼から冷却水を取水する訓練は、沼に氷が張るほどの厳冬期にも行うとのこと。あえて厳しい環境の中で訓練を行っているということに、安全にかける熱意を感じました。

放射線測定もしっかりと

分析の徹底が安心材料に

今回の訪問ではモニタリングポストと環境管理センターも見せていただきました。モニタリングポストは再処理工程で排出される気体に含まれる放射線を測定する施設です。環境管理センターは再処理工場周辺で採れた飲料水や様々な農水産物に、放射性物質の影響があるかを調べる施設で、調べる仕組みも説明していただきました。

生活に関係する様々な物質を徹底して分析していることに感銘を受けました。こうした取り組みが地域の方の安心に繋がります。

